



めらを志すてさり出

めまくる。代の中で、技術に粘りて新たな産業「挑戦型」で、A.T.さらにその先

「新たな芽」となる産業を創る人材育成

「1などの
材料」を育成する必要性を感じ
ている。状況が変
化する。2022年4月には東大が
これまでの農業戦略を地域視
点から長期的に議論する取り
組みを動き始めている。

力にも工夫を凝らしてい
る。「語学研修ではなく、学
科上が司、課題を待つて義
理する包括的教育」を実現す
るため、豊富な実習機関との連携を強化する方針だ。

アーリングなどの成長分野をけん引する高度専門人材を育成。国から補助を受け環境・そ、課題先進県である秋田の

大字

響や将来の農業戦略を地域視点から長期的に議論する取り組みも動き始めている。

「地域から世界へ」をテーマに、23年4月の学長就任以来、海外大との協定締結にも力を入れている。協定校は就任前の2倍超の24校にまで増加。これまで多かつたアジア圏に加え、欧米や南米、アフリカにもエリガを拡大している。「語学研修ではなく、学生同士が同じ課題を持つて議論を重ねたり、長期的な交流を持つきっかけになるといいですね」

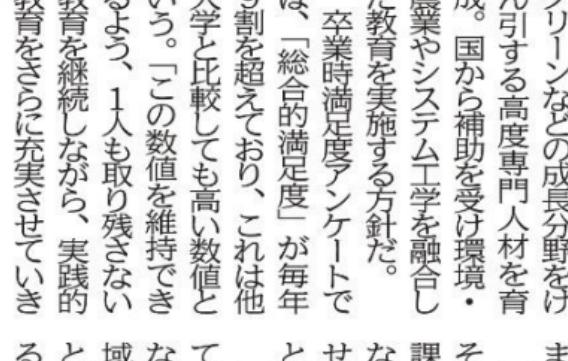
27年4月には大学院に新たなプログラム「未来グリーン・デジタルサイエンス学環」を開設する。デジタルや

A photograph of two men in suits standing in front of a backdrop featuring the logos of three universities: Meiji University, Asia University, and the University of Tokyo. The man on the left is holding a large, framed certificate or document. The man on the right is also holding a similar document. The backdrop is a repeating pattern of the university logos.

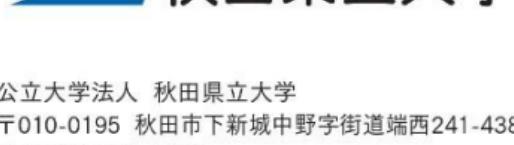
卒業時満足度アンケートでは、「総合的満足度」が毎年上位割を超えており、これは他大学と比較しても高い数値という。「」の数値を維持できるよう、1人も取り残さない教育を継続しながら、実践的教育をさらに充実させていく。

「秋田の未来をどう創造していくか」という問いに長期的な視点で向き合いながら、地域の持続的発展に貢献することができる大学の役割だと考えている。

調課題を理解でき、地域の新たな芽となる産業などを生み出させていけるのだと思います」と語る。



一地題を課す。題材は芽と葉と、秋の物語である。



教育·研究

